

夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市 小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

人間関係ってものができるわけですから。

「言葉の湖」みた
◆本は読むだけでなく、同時に大切なのは、毎日の生活の中で子どもたちがどんな言葉を聞いて育っていくかってことです。日本語がどんどん貧しくなっています◆子どもの言葉の中に子どもの気持ちがあるんですから、それをちゃんと聞くっていう力が大人の方になければ、子どもの心も育ちません。言い放しになってしまいます。大人がちゃんと聞いて子どもの気持ちを感じ取る。そこで、



どんな言葉聞いて育つか

『子どものこも』に込めた思い②
絵本は「読み手」のもの

ね。それから、幼稚園、保育園の先生。お父さん、なんて聞くと、僕はほっとするんですけどね。それから、文庫のおばさんとか図書館



◆子どもが自分で読めるようになって、絵本は読んでやった方がいいと思います。それも、小学校の上級でも、中学校でも、高校生や大学生でも、絵本は読んでやった方がいいと思います◆つまり、絵本では、読んでもらった時に、聞き手の方は、その物語に非常に心を動かされてるんです。動かされますと、それを読んでくれた人のことを忘れることは少ない。お母さんが圧倒的に多いです

◆だから、絵本は、読み手と聞き手の体験の中では「読み手」のもので、絵もそうなんです。絵も、読み手が手で開いて見せてくれたんです。ですから、子どもは、絵本を開く大人の読み手の手の動きをとってもよく見えます。あ、今日はちゃんと読んでるなとか、今日はどんな読み手ですかとか、すぐわかりますからね

◆読み手の動きを見ている

◆だから、絵本は、読み手と聞き手の体験の中では「読み手」のもので、絵もそうなんです。絵も、読み手が手で開いて見せてくれたんです。ですから、子どもは、絵本を開く大人の読み手の手の動きをとってもよく見えます。あ、今日はちゃんと読んでるなとか、今日はどんな読み手ですかとか、すぐわかりますからね

緊張させたらダメです。聞いていますからね。緊張させたらダメです。

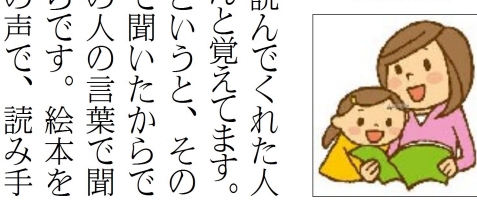
◆絵本では、気楽に読めばいいんです。聞かなくていいんです。子どもが、聞かなくていいんです。

◆絵本では、気楽に読めばいいんです。聞かなくていいんです。子どもが、聞かなくていいんです。

に考えない方がいい。一番近いのは「遊び」だと思えます。子どもにとつて遊びとは、一番創造的なことですから絵本の中で遊ばないんですよ。絵本の中で遊ぶと、それが心の中に染みついてしまつて、成長する過程でそのことの意味が分かる。(つづき)

に考えない方がいい。一番近いのは「遊び」だと思えます。子どもにとつて遊びとは、一番創造的なことですから絵本の中で遊ばないんですよ。絵本の中で遊ぶと、それが心の中に染みついてしまつて、成長する過程でそのことの意味が分かる。(つづき)

に考えない方がいい。一番近いのは「遊び」だと思えます。子どもにとつて遊びとは、一番創造的なことですから絵本の中で遊ばないんですよ。絵本の中で遊ぶと、それが心の中に染みついてしまつて、成長する過程でそのことの意味が分かる。(つづき)



くめくめて、あるところはゆっくりめくったり、あるところは立ち止まったり、あるところは元に戻ったりと、そういうことは手の動きなんです。◆もう一つは、声の調子とか表情を見てれば、本当に自分に読んでくれるのか、今日は早く読んでしまつたらいいみたいな気持ちで読んでいるのか、手に取るようにわかりますよ◆絵本は、読み手と聞き手の間に、その時間と空間が生きてきたものになる。その時間と空間の喜びを、読み手と聞き手が共有できることがすごいことだと思います。

緊張させたら聞いてはいるんですけど、聞くというときに気を取られてしまつて物語をほんとに聞いているかどうかかわからない。最後までちゃんとお行儀よく聞いていければ、お母さんは喜ぶってことは知っていますからね◆どういふふうにしたら一番楽しめるか、楽しい心に残るんです。心が動かなければ、心に残らないんです。絵本は頭で理解するとか、そういうもんじゃないんです。あまり教育的に考えない方がいい。